

鳴門教育大学附属中学校
学校関係者評価報告書

(平成24年度)

平成25年3月

学校関係者評価委員会

目 次

学校関係者評価委員会が実施した学校評価について	1
I 学校関係者評価結果	3
II 評価項目ごとの評価	7
1. 楽しい学校	7
2. 美しい学校	8
3. 活力ある学校	9

参考：学校の現況及び目的

学校関係者評価委員会が実施した学校評価について

はじめに

本報告書は、保護者、学校評議員、大学教員、地元の企業経営者で構成された学校関係者評価委員会が、附属中学校の教育活動の観察や校長ほかとの意見交換等を通じて、附属中学校の自己評価の結果について評価することを基本に学校関係者評価を実施し、その結果を報告書として取りまとめたものである。

1 評価の目的

学校評価は、次の3つを目的として実施するものである。

- ① 学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講ずることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

2 評価のスケジュール

24年7月	第1回学校関係者評価委員会(委員長の選出, 評価項目ごとの評価担当者の決定)
9月	文化祭参観, 校長との意見交換
11月	オープンスクール参観, 校長との意見交換
25年3月	第2回学校関係者評価委員会(評価報告書のまとめ)

3 学校関係者評価委員会委員(平成25年3月現在)

- | | |
|---------|-------------------|
| 湊 暁美 | 保護者会会長 |
| 手束 直胤 | 元附属中学校学校評議員・本校卒業生 |
| ○ 今倉 康宏 | 鳴門教育大学特任教授 |
| 稲木 紀彦 | (株)トクジム代表取締役社長 |

○は委員長

4 本評価報告書の内容

(1) 「Ⅰ 学校関係者評価結果」

「Ⅰ 学校関係者評価結果」では、「Ⅱ 評価項目ごとの評価」において評価項目 1 から 3 のすべての評価項目の内容を総合的に判断し、4 段階評価で記述しています。また、学校の目的に照らして、「主な優れた点」、「主な改善を要する点」を抽出し、上記結果と併せて記述しています。

また、本年度は、保護者を対象とした「学校評価アンケート」調査結果についても記述します。

(2) 「Ⅱ 評価項目ごとの評価」

「Ⅱ 評価項目ごとの評価」では、評価項目 1 から 3 において、当該評価項目が達成されているかどうかの「評価結果」及び、その「評価結果の根拠・理由」を記述しています。加えて、取組が優れていると判断した場合や、改善の必要がある場合には、それらを「優れた点」及び「改善を要する点」として、それぞれの評価項目ごとに記述しています。

(3) 「参考」

「参考」では、自己評価書に掲載されている「Ⅰ 学校の現況及び目的」を転載しています。

5 本評価報告書の公表

本報告者は、鳴門教育大学に提供するとともに、設置者に提出します。また、ウェブページ (<http://www.kinsch.naruto-u.ac.jp>) への掲載により、広く社会に公表します。

I 学校関係者評価結果

鳴門教育大学附属中学校の学校関係者評価は、内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

これらの評価に至った根拠については、「II 評価項目ごとの評価」の欄に詳細に報告しているので、ここでは、本校の教育目標である①楽しい学校②美しい学校③活力ある学校の3本柱における達成度を総括する。

【主な優れた点】

①楽しい学校

生徒が、主体的に活動したり、感動したり、納得したり、学ぶ楽しさを実感させるために、教員全員が、教材・教具や指導方法等の工夫改善に取り組んだり、大学と連携した魅力的な授業を展開（LF タイム・課題探求学習）することにより、生徒の学習意欲を高めるとともに、基本的な学習習慣や態度の育成を推進し、着実に効果を上げている。

- 平成23・24年度国立教育政策研究所による「研究主題：新学習指導要領の趣旨を具体化し深化充実するための教育課程編成，指導方法等の工夫改善に関する研究(中学校)」に関する教育課程研究指定校事業として全国では19の教科が採択されたが，本校は，「思考力・判断力・表現力をはぐくむ授業の創造－言語活動の充実と観点別学習評価を生かした指導を通して－」をテーマとした5教科（国語・社会・数学・理科・保健体育）の実践研究が採択され，その研究成果を全国に報告し，高く評価されるなど拠点校としての役割を果たしている。
- 平成24年4月17日に実施した全国学力・学習状況調査の結果において，本校の生徒は，国・数・理のいずれも平均正答率が，全国国立平均を上回っている。また，「よくわかる授業・主体的に考える授業が行われていると思う生徒」や「言語活動を意識して学習している生徒」の割合が，ほとんどの質問項目で前回調査や全国国立平均を上回っている。これらの結果は，本校の教育目標が，十分達成されていることを示している。

②美しい学校

人権教育の視点に立って，学校・学級への帰属意識や自尊感情を高める新しい教育課程の創造に努め，環境美化に努めることはもとより，教師間，教師と生徒，生徒間等において，適切にコミュニケーションできる環境（新聞の活用・予防教育の推進・人権教育の公開授業及び研究協議を実施）及び人権教育の充実に努めるなど，「美しい言語環境」の中で安心して過ごせる学校環境の構築に貢献している。例えば，日本新聞協会「第3回いっしょに読もう！新聞コンクール」学校賞・奨励賞を受賞したり，人権学習では「H24 人権に関する児童生徒の作品，作詩・作曲部門」知事賞や警察庁「給与厚生課長賞」を受賞したりしていることより高く評価できる。

③活力ある学校

- 本年度から「年度当初に教員一人一人が学校目標（楽しい学校，美しい学校，活力ある学校）を踏まえて自己目標を設定し，校長等の指導助言や所属組織の支援を得ながら，その達成を図るとともに，年度末には，その自己目標の達成状況及び評価指標と照らした職務遂行状況を自己評価」する資質向上プログラムに意欲的に取り組み，「教職員の資質向上」ひいては「児童生徒に対する教育の質の向上」が認められる。また，本校ホームページをリニューアルし，本校の研究内容はもとより，学校の教育活動全般や教育課程について発信していることは評価できる。

- 本校の平成24年度全国学力・学習状況調査（質問紙調査：生活習慣の確立に関する事項）の結果を、全校国立平均および前回調査と比較すると、好ましい回答をした生徒の割合が上回っていることから、保護者と連携して、積極的に生徒の生活習慣の重要性の啓発を行い、生徒の基本的な生活習慣の確立を図り、徐々に効果を上げていることが推測される。

【主な改善を要する点】

①楽しい学校

- 大変厳しい財政状況ではあるが、研究開発学校として最先端の研究を進めるために、デジタル教科書、電子黒板、生徒用タブレット端末等を活用した言語活動等が行えるICT環境整備を進めると共に、さらなる授業改善に努め、生徒一人一人にとって学ぶ喜びに満ちた「楽しい学校」づくりを推し進めてほしい。

②美しい学校

- いじめ・不登校の問題は、少しずつ地道な対応を継続してゆくしか解決への道はなく毎年改善点としてあげられているが、本校では本年度も担任はもとより保護者、専門家、学年団・管理職が一体となって組織的に対応しており、3年生においては昨年まで不登校であった生徒2名が登校できるようになるなど解消に向けてその兆しが見え始めている。今後とも緩むことなく「必ずいじめはある」という認識のもと、予防教育を継続し適切な対人関係を意識させたり、人権学習を充実させ人権感覚を高めたりする取組を更に推進してほしい。

③活力ある学校

生徒の基本的な生活習慣のうち、早寝・早起きについては課題があり、特に3年生は入試があることからその解決は容易ではないと思われるが解消に向けてさらなる努力をしてほしい。また、教職員のワークライフバランスについても、すでに大学教員も含んだ教員間の連携、保護者会の協力等、お互いの仕事を補佐する体制はほぼ確立されていると思われ、もはや教員の事務負担の軽減等を工夫する余地がほとんどなく、よりよい教育実践や教育実習、部活動指導を目指す以上、その調整はきわめて困難である。完全に解決するためには、よりいっそうの部活動指導者や学校ボランティアを配置するなど人的配置の増員がはかられることを希望する。

○ 「学校関係者評価結果」は、次の4通りで判断します（「Ⅱ評価項目ごとの評価」の判断も同じ）。

- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取り組まれているが、成果が十分でない
- D 取組が不十分である

○上記の他、「学校関係者評価結果」として、評価項目の観点ごとに抽出した「優れた点」、「改善を要する点」を要約し記述します。なお、「優れた点」、「改善を要する点」を要約するに当たっては、当該学校の目的に照らして、重要な位置付けにあると考えられる取組状況を考慮した上で、精選・整理したものを記述します。

【平成24年度 保護者を対象とした学校評価アンケート集計結果】

保護者を対象に本校の本年度の重点目標「(①楽しい学校(7項目), ②美しい学校(11項目), ③活力ある学校(7項目)」に関する学校評価アンケートを実施したので, その結果を総括する。

(調査対象数471名中, 433名の回答)

- ほとんどの調査項目で「当てはまる」が80%を超えており, ほとんどの保護者が本年度の重点目標を概ね達成できていると評価している。特に, 「生徒は楽しい学校生活を送っている(96.3%)」「先生のあいさつやマナー, 電話などでの対応はよい(97%)」「生徒は服装や身なりがきちんとしている(97.2%)」「生徒は体育祭, 文化祭, 音楽会など学校行事に主体的に取り組んでいる(97.7%)」は, 普段の指導・保護者対応等が, 適切に行われた成果であると考えている。
- 家庭との連携により目指した生活習慣の確立は「早寝・早起き・朝ご飯ができている(67.2%)」「家庭で学習する習慣が身についている(72.3%)」となっており十分ではない。これは, 部活動や通塾に力を入れる中学生の実態を考えるとたやすく解決できるものではないと思われるが, 一方で中学3年に実施された平成24年度全国学力・学習状況調査(質問紙調査)において, 生活習慣を問うた質問項目の回答結果が, 前回の平成21年度調査よりもよくなっていることから, 地道に家庭との連携を図ってきた成果が出始めていると考えている。
- 「交通ルールやきまりを守っている(75.9%)」は, 交通事故による怪我等のリスクを考慮すると, さらなる学校での指導の徹底と家庭への啓発が必要と考えている。
- 保護者から寄せられた意見で, 特に「(生徒が)自分で考えること・発想すること」はまだまだ不十分であるとの指摘があり, 現在, 実践研究している「思考力・判断力・表現力の育成」をより発展的に進めたいと考えている。

平成24年度 学校評価アンケート（保護者対象）集計結果

平成25年2月22日配付・28日回収
回答数：433（調査対象数471）

		よく 当てる	当て はまる	当て はま らない	全く 当て はま らない	無回答
楽しい学校	先生は授業をわかりやすくていねいに教えている。	30.3%	60.5%	5.8%	0.9%	2.5%
○授業の工夫改善	先生は楽しい授業となるよう工夫している。	27.5%	61.9%	7.9%	0.7%	2.1%
	先生が一人一人の生徒を理解しようとしている。	23.6%	59.6%	13.9%	0.9%	2.1%
○学ぼうとする意欲・態度	落ち着いて学習に取り組める雰囲気がある。	37.6%	55.0%	5.5%	0.5%	1.4%
	生徒は楽しい学校生活を送っている。	47.3%	49.0%	3.2%	0.2%	0.2%
	生徒は自ら学ぼうという意欲をもっている。	31.2%	55.4%	11.3%	0.5%	1.6%
	学校での学習内容を家庭で話題にすることがよくある。	22.9%	47.3%	26.8%	2.3%	0.7%
美しい学校	道徳や人権の学習など心を育てる取組が充実している。	22.9%	63.3%	9.7%	0.7%	3.5%
○適切なコミュニケーション	先生のあいさつやマナー、電話などでの対応はよい。	51.0%	46.0%	2.1%	0.0%	0.9%
	先生の生徒に対する言葉遣いや態度が適切である。	34.2%	55.9%	8.1%	0.7%	1.2%
○整えられた教育環境	先生と生徒の関係は良好である。	32.6%	56.6%	7.9%	0.7%	2.3%
	教室等の環境が整えられている。	31.6%	52.9%	12.7%	1.8%	0.9%
	家庭への電話連絡等が適切に行われ、状況に応じた対応がなされている。	42.0%	50.3%	4.2%	0.2%	3.2%
	保護者が先生に相談できる雰囲気がある。	30.5%	53.1%	13.6%	1.2%	1.6%
	生徒は正しい言葉遣いをしている。	19.2%	65.4%	13.6%	0.5%	1.4%
	生徒は交通ルールやきまりを守っている。	14.5%	61.4%	20.1%	0.9%	3.0%
	生徒はあいさつがよくできている。	24.2%	60.7%	13.2%	0.5%	1.4%
○生徒の意欲的・主体的な活動の充実	生徒は服装や身なりがきちんとしている。	33.7%	63.5%	2.1%	0.0%	0.7%
	生徒は体育祭、文化祭、音楽会など学校行事に主体的に取り組んでいる。	47.1%	50.6%	2.1%	0.0%	0.2%
○家庭と連携した生活習慣の確立	先生は責任感・使命感をもって教育活動を進めている。	38.6%	52.9%	4.6%	0.9%	3.0%
	自分の子どもは「早寝・早起き・朝ご飯」ができています。	25.2%	42.0%	29.1%	3.0%	0.7%
	自分の子どもは、朝学校が始まる5分前には登校している。	54.5%	34.4%	9.2%	1.6%	0.2%
○家庭と連携した生活習慣の確立	自分の子どもは家庭で学校の様子をよく話す。	32.8%	43.6%	19.6%	3.2%	0.7%
	自分の子どもは家庭で学習する習慣が身についている。	25.2%	47.1%	22.2%	5.1%	0.5%
	学校行事、参観日、HPなどで学校の様子がよくわかる。	24.5%	60.7%	11.3%	1.4%	2.1%

II 評価項目ごとの評価

評価項目1 楽しい学校

<目標>

生徒が、主体的に活動したり、感動したり、納得したり、学ぶ楽しさを実感させるために、教員全員が、教材・教具や指導方法等の工夫改善に取り組んだり、大学と連携した魅力的な授業を展開することにより、生徒の学習意欲を高めるとともに、基本的な学習習慣や態度の育成を目指す。

【評価結果】 4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

(評価結果の根拠・理由)

観点1-1 授業の工夫改善

生徒が主体的に活動したり、感動したり、納得したりする授業が展開できているか。

本校では、平成23・24年度教育課程研究指定校として、「思考力・判断力・表現力をはぐくむ授業の創造—言語活動の充実と観点別学習評価を生かした指導を通して—」をテーマとした実践研究を進めている。本年度は、「思考力、判断力、表現力を高める教材・教具や指導方法等の工夫改善」に取り組んで、以下の成果を上げていることが高く評価される。

- ①年間指導計画に言語活動の構造化を図った授業（課題）を位置付け、課題を解決するために必要な知識・技能と課題のつながりをより明確にする授業展開の開発。
- ②「言語活動の構造化」、「可視化」、「活用カード・シート」、「学びの振り返り」により、基礎的・基本的な知識・技能の活用に対する意識が高まったり、授業における過程を経ていくごとに思考・判断・表現の高まりや深まりが見られるなど効果的な授業展開方法を確立。
- ③生徒が身に付けた知識・技能の確認、自分の思考の過程の整理、思考の変容の意識等を喚起させる授業を展開。

観点1-2 学ぼうとする意欲・態度の育成

生徒の学習意欲を高めるとともに、基本的な学習習慣や態度を育成できているか。

(1) 生徒一人一人に自己の学びを認識させる工夫

①～④に示した「学びの振り返り」により、生徒一人一人が、学習を通してどのような力が身についたのか明確に認識させ、自分の成長を自覚させることで学習意欲を高める授業に取り組んでいる。

- ①ワークシートによる学びの可視化
- ②活用カードによる学びの蓄積
- ③学びの振り返りによる学びの自覚
- ④友達のよさを伝える活動の長所

(2) 大学と連携した魅力的な授業の実践

- ①LFタイムの実施

本年度も LF タイムが計 12 回開催され、国際理解、思春期の心の問題、からだのこと、科学的・論理的な思考、音楽など、附中 OB と本学の先生方より多彩な分野の講義が実施されている。ほぼ毎回、生徒から質問が寄せられ、学ぶ喜びに満ちたものとなっており、普段の授業とは違う知的な喜びを味わわせることができ、生徒の学ぼうとする意欲を引き出し、自ら学習しようとする態度と知的好奇心を高める効果が大きく、継続が望まれる。

②2学年総合的学習における課題探究学習の実施

本年度も大学との連携を生かした課題探求学習を設定し、各教科で身につけた基礎的・基本的な知識・技能をもとに発展的な学習を行うことで、思考力・判断力・表現力を育成することを目標に実施されている。本校が有する人的資源を有効活用し、こうした授業を展開することは、学校マネジメント上も大変効果的であり、生徒の人格形成に大いに貢献するプログラムと思われる。

授業時間の調整が困難と思われるが継続されることを希望する。

(3) 読書習慣の確立

①毎朝 8:30～8:40 までの 10 分間、朝の読書タイムを設けている。

②平成 21 年度からは、生徒・教職員・保護者が参加している文庫本一冊の長辺を 15 cm として、読書の冊数を掛けて算出し、旅の路線は JR として、この一年どのあたりまで進むかを楽しむという大変ユニークな「日本一周読書の旅」プロジェクトに取り組んでおり、歴代の生徒が受け継いでいく新しい伝統になりつつある。また、その集計結果は附属中学校のホームページにおいて閲覧できるようになっており、本校の特色の一つとなっている。

③本年度は、司書教諭（パートタイム勤務）を配置することができ、図書館の効果的な運営管理に当たっている。読書冊数も平成 23 年度に比べて平成 24 年度は大幅に増えるなど、学ぼうとする意欲・態度の表れとして一つの目安になると思われるので、継続性を希望する。

評価項目 2 美しい学校

<目標>

- ①人権教育の視点に立って、学校・学級への帰属意識や自尊感情を高める新しい教育課程の創造に努める。
- ②環境美化に努めることはもとより、教師間、教師と生徒、生徒間等において、適切にコミュニケーションできる環境を構築し、「美しい言語環境」の中で安心して過ごせるようにする。

【評価結果】 以下の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

(評価結果の根拠・理由)

観点 2-1 適切なコミュニケーション [美しい言語環境]

教師間、教師と生徒、生徒間において、適切にコミュニケーションできる環境や安心できる人間関係が構築できているか。

(1) 適切な言語活動を引き出す工夫

新聞を教材として積極的に取り入れ、読解力を高めるとともに、新聞記者をゲストティーチャーに招いて、人権の視点を持った記事の起こし方や記事の背景の読み取り方を学ばせるなど、新聞に

親しみながら教員、家族、友人との対話を深める等、コミュニケーション力を高めている。

(2) 対人関係性の育成（予防教育の推進）

いじめや不登校など学校での問題を未然に防ぐことを目指して、鳴門教育大学予防教育科学センターが開発した予防教育プログラムを1学年全学級に8時間実施し、相手を理解し大切にしながら人との関係をつくるスキルや、自分・相手・周囲も納得できる問題解決スキルを身につけさせている。

(3) 人権教育の充実

平成24年11月8日（木）に徳島市・佐那河内村人権教育研究大会が本校を会場として実施され、全学年・学級が人権教育の公開授業及び研究協議を通して、本校の人権教育全般について見直しを行うと共に、外部から指導者を招き、実体験を語って頂いたり、校外学習に体験的な人権学習を取り入れたりした実践を行っている。

評価項目3 活力ある学校（資質向上の取組）

<目標>

- ①生徒の意欲的・主体的な活動を充実させる。
- ②保護者と連携して生徒の基本的な生活習慣の確立を図るとともに、教師一人一人が責任感・使命感を持って教育活動を進める。
- ③教育研究、教育課題の解決においては、教師集団として協働し学校組織を生かした取組を行う。

【評価結果】 以下の内容を総合し、4段階評価中の「**A 十分達成されている**」と判断する。

(評価結果の根拠・理由)

観点3-1 信頼され支え合う教師集団

教師一人一人が責任感・使命感を持って教育活動を進めているか。また、教育研究、教育課題の解決においては、教師集団として協働し学校組織を活用した対応を行っているか。

(1)教師一人一人が責任感・使命感を持って教育活動を進めている。

年度当初に、教員一人一人が学校目標（楽しい学校、美しい学校、活力ある学校）を踏まえて自己目標を設定し、校長等の指導助言や所属組織の支援を得て、その達成を図るとともに、年度末には、その「自己目標の達成状況」及び「評価指標と照らした職務遂行状況」を自己評価する資質向上プログラムを実施することによって、「教職員の資質向上」ひいては「児童生徒に対する教育の質の向上」を推進しており、十分な成果を上げている。

(2)教育研究、教育課題の解決においては、教師集団として協働し学校組織を活用した対応を行っている。

①研究成果の普及

本校教員は、様々な機会を活用して本校研究内容を公表することにより、研究成果の普及を図っている。その場合の啓発資料として、本年度は、研究内容をA4用紙両面にまとめた概要版を作成し、研究の理解度を高め、より多くの教員への普及に努めるとともに、本校ホームページをリニューアルし、本校の研究内容はもとより、学校の教育活動全般や教育課程について発信するなど、多

くの方に本校の活動を知って頂く努力をしており、教育拠点校としてのより一層の発展が期待される。

②ワークライフバランスの調整

この課題に関しては、これまでにいろいろな提言がなされ、工夫がなされているが、一方で、研究開発・教育実習等、附属学校の使命を果たすために軽減できない業務があまりにも多く、勤務時間の短縮にはつながっていないのが現状である。この課題は、本校だけの努力で解決出来るものでなく、財源的に厳しい状況であるが、補助教員の増員などを含めて大学教員も含む教員間の連携体制の確立と強化、保護者会の協力など広範囲の協力体制をより進めていくことが重要と思われる。

観点3-2 生活習慣の重要性の啓発

保護者と連携して、生徒の基本的な生活習慣の確立を図っているか。

家庭と連携した生活習慣の確立（早寝、早起き、朝ごはん等による健康管理）に向けて種々の取組を行っており、この課題に関する全国調査結果と比較して好ましい回答した生徒の割合が上回っている結果が得られるなど推進の成果が認められており、継続性を期待する。

【参考】学校の現況及び目的

1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属中学校
- (2) 所在地 徳島市中吉野町1丁目31番地
- (3) 学級等の構成
1 学年 4 学級 2 学年 4 学級
3 学年 4 学級 計 12 学級
- (4) 生徒数及び教員数(平成24年5月1日)
生徒数 472 人 教員数 23 人(正規教員)

2 目的

(1) 目的・使命

本校の目的は、附属中学校校則第1条において「小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すとともに、鳴門教育大学（以下「本学」という。）における生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の実習等の実施に当たることを目的とする」と定めており、本校は義務教育を行う任務とともに、教員養成大学の附属中学校として、次のような使命をもった学校である。

- ① 大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学的な研究を行う研究学校としての使命
- ② 地域の教育諸課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地教委等教育関係機関からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
- ③ 鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

(2) 教育目標

本校は、校則第1条に示されている中学校教育の目的の達成のため、次の教育目標を掲げ、めざす生徒像・教師像・学校像を明確に示している。

知・徳・体の調和的人格の完成をめざし、自主・自立の精神、創造的能力、豊かな人間性をそなえ、国際社会の発展に寄与することのできる心身ともにすこやかな中学生を育成する。

めざす生徒像

- 目標を持ち、自主的、創造的に学ぶ生徒
- 強靱な意志と体を持ち、たくましく生き抜く生徒
- 優しく思いやりの心を持ち、人につくす生徒

めざす教師像

- 生徒を愛し、生徒とともに伸びる教師
- 強い使命感、鋭い教育観をもった教師
- 優れた指導力をもった教師

めざす学校像

- 創造的な知性を磨く学問学校
- 情熱的な意志を鍛える鍛錬学校
- 強健な身体を練る体育学校
- 敬和奉仕の精神に生きる人間学校

(3) 平成24年度重点目標

鳴門教育大学との連携を密にし、中期目標・中期計画・本年度計画の実現に努めながら、次の3本柱5項目から教育目標の具現化を図る。

- ① 楽しい学校
- ② 美しい学校
- ③ 活力ある学校

(4) 評価項目

- ① 楽しい学校

【授業の工夫改善】

- ・ 年間指導計画の立案と実践
- ・ 思考力、判断力、表現力を高める教具、指導方法等の工夫改善

【学ぼうとする意欲・態度の育成】

- ・ 生徒一人一人に自己の学びを認識させる工夫
- ・ 大学と連携した魅力的な授業の実践
- ・ 読書習慣の確立

- ② 美しい学校

【適切なコミュニケーション [美しい言語環境]

- ・ 適切な言語活動を引き出す交流活動の工夫
- ・ 対人関係性の育成（予防教育の推進）
- ・ 人権教育の充実

- ③ 活力ある学校

【信頼され支え合う教師集団】

- ・ 学校目標達成に向けた全教員による取組推進と教員一人一人の資質向上(資質向上プログラムの実施)
- ・ 研究成果の普及 ・ ワークライフバランスの調整

【生活習慣の重要性の啓発】

- ・ 家庭と連携した生活習慣の確立
(早寝、早起き、朝ごはん等による健康管理)